

6月に入り梅雨の時期を迎えた。私が最も嫌いな季節である。心身の健康を維持するためにも運動はきわめて重要であるが、唯一の趣味である週1回のテニスもなかなか厳しい季節である。自ずとストレスも溜まりやすくなる。入梅してまだ間もないのに、すでに梅雨明けが待ち遠しい。

多くの脊椎脊髄外科医にとって、脊椎脊髄悪性腫瘍は最もストレスがかかる疾患のひとつである。もちろん、本疾患はいまだ根治的治療が困難であり、いかなる治療を行ったとしても、必ずしも予後は良好ではないことに起因する。この厳しいテーマを敢えて選ばれた飛驒先生と、寄稿いただいた先生方にあためて敬意を表したい。

本号では、臨床の現場で本疾患と格闘されている各分野の先生方の最先端の知見が網羅的に集約されている。患者のQOLや生命予後の向上を目指した外科的治療、陽子線・重粒子線による放射線治療、抗がん剤による化学療法、分子標的治療など多分野に及び、本号を一読すれば脊椎脊髄悪性腫瘍に対する治療の現状と今後の展望が理解できる構成である。玉稿を拝読し、ともすれば本疾患に対して怯みがちになってきた多くの脊椎脊髄外科医に対して、力強いエールを送るとともに、叱咤激励しているかのような印象を抱いた。もちろん、いまだ根治は厳しい現状ではあるが、果敢に本疾患と向き合ってきた先生方の力作を、是非手にとってご一読いただきたい。

いま、私は第12回上原財団国際シンポジウムに参加している。本シンポジウムのテーマは「Make Life Visible」である。海外より、MRIのdiffusion tensor imagingを開発したDenis Le Bihan先生やOptogeneticsを開発したKarl Deisseroth先生などの最先端のイメージングの話に触れ、脊椎脊髄領域にもこれらのイメージング技術を導入し、multi-imaging techniqueを駆使した脊椎脊髄悪性腫瘍の病態の解明や新たな診断技術の開発ができるのではないか、また米国立がん研究所の小林久隆先生の悪性腫瘍に対するnear-infrared photoimmunotherapyの話の聴き、これら最先端の治療法を脊椎脊髄悪性腫瘍にも応用できないかと思いを馳せているところである。

(中村雅也)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

徳橋泰明 (編集委員長)
金 彪 (副編集委員長)
青木茂樹 安藤哲朗 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 30 No. 7
(2017年7月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価 (本体2,300円+税)

(配送料別)

年ぎめ予約購読料 30,700円+税
送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>
(担当：山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2017,
Printed in Japan

JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。